

大阪狭山市の総合計画(人口ビジョン・総合戦略)

講 師 大阪狭山市政策推進部企画グループ 西野課長

年 月 日	令和元年10月5日10時30分~11時40分
グループワーク	題材:「 10年後の大阪狭山市はどのようなまちになってほしいか? 」
参 加 者	吉田、高橋、中井、中野、古木、小林秀、阪手、澤田、田口 小林利、松嶋(計11名)
ファシリテータ	伊勢田
議 事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭山池博物館の来訪者は国際化している。そのため市内にホテル必要。また、池以外の観光施設を作ること。 ・ 水、空気なきれいなことが魅力。人口増の施策との調和をして環境を守り続ける。 ・ 暮らしやすいまちを継続。自然と調和したまち、健康できれいな水、美しく、安全で住みやすいまち ・ 住み続けたいまちであり続ける。自然はあるが、不自由さはあっても良い。ニューヨークのセントラルパークがよい例で、快適なまちづくりをする。企業誘致は必要ではない。 ・ 企業誘致は必要であり、活気あるまちとする。大規模ではないが、ホテルは必要。空き家利用で対応。 ・ 安全、安心なまち。 ・ 安全なまちで、人と人のつながりがあり、住むための環境の良いまち。 ・ 救急医療の体制ができていない。早急に設置必要。 ・ ボランティアの高齢化が進み、多くの世代からの参加が必要。特に若もの、子どもの参加を要す。 ・ 静かな環境の良いまち。 ・ 近畿大学病院、又は帝塚山学院大学跡地を利用して、防災センターの設置を希望。 ・ 現在の図書館・公民館・社協などの更地にして別途利用。 帝塚山学院大学跡地に上記施設を改良、新設する。 ・ 空き家対策で、ホテルや若い世代の定住施設とする。
<p>但し、グループワークの前に、講義「総合計画」に対する質疑応答を行う。</p>	
以 上	